

花、里、民家、

さようなら

私の好きだった

風景

佐野昌弘

# 第一章

# 早春

睦月（2月） 弥生（3月）

北では民家達が  
真っ白な毛布を脱ぎ、  
南では殆ど同系色のなかに  
埋まっていた民家の周りに、  
かすかに春の目覚めの  
緑の芽が見えはじめる。  
やっと咲いた梅の花が、  
なごりの雪で化粧して  
驚いたりする。



京都美山町向山

白い衣を脱いだ里に

かすかな香り

春はもうすぐ



新潟堀之内町長屋

雪残る 畔で

落のとう 見つけた

春の 実感



岡山加茂町堂ヶ原

雪解けの冷たい水が

「雪代」になって村の小川を迂る

山はまだ 冬



岡山加茂町堂ヶ原

凸凹な細い山道、車の底を何度も岩に擦りながら  
幻の民家を求めて、やっと峠を越えた  
越えた峠の先の集落は、夢の様な所でした、  
清らかな清流、良く手入れされた田んぼ、  
美しい茅葺き民家、遠くに連なる山々、  
百科事典に日本の原風景として  
載せたい様な風景が有りました。

撮りました、何回も通いました。



岩手遠野市土淵

朝の光が峰を越して、谷間に射すと

残雪に濡れた屋根から炎の様に

湯気が舞い上がり、白い道が光った

北上高地はまだ冬





山口熊野町高城

山口県熊野町に鶴が飛来することを聞いて、

白い鶴の舞う茅葺きを期待して出かけたが  
生憎丹頂ではなく鍋鶴、しかも一羽も居らず。

でも資料で見た軟らかい丸味を持った  
周防の屋根に出会えたのは収穫でした。

ご感想、お待ちしております。

佐野昌弘

masahiro.s@daccs